

第4次芦屋市環境計画

これからも続けること・これから始めること 「わたし・まち・自然」の 未来のために

第4次芦屋市環境計画は、これまでの環境施策で大切にしてきた、まちの美化や景観に対する取り組みを、これからも続けていくことを前提とし、以下の取り組みを進めていきます。

① 自然共生

山・川・海が市街地のすぐ近くにあり、多様な自然を身近に触れることが出来る、芦屋の環境の素晴らしさを、あらゆる主体（市民・事業者・団体・行政等）が理解し、親しみ、次の世代に引き継いでいくための取り組み

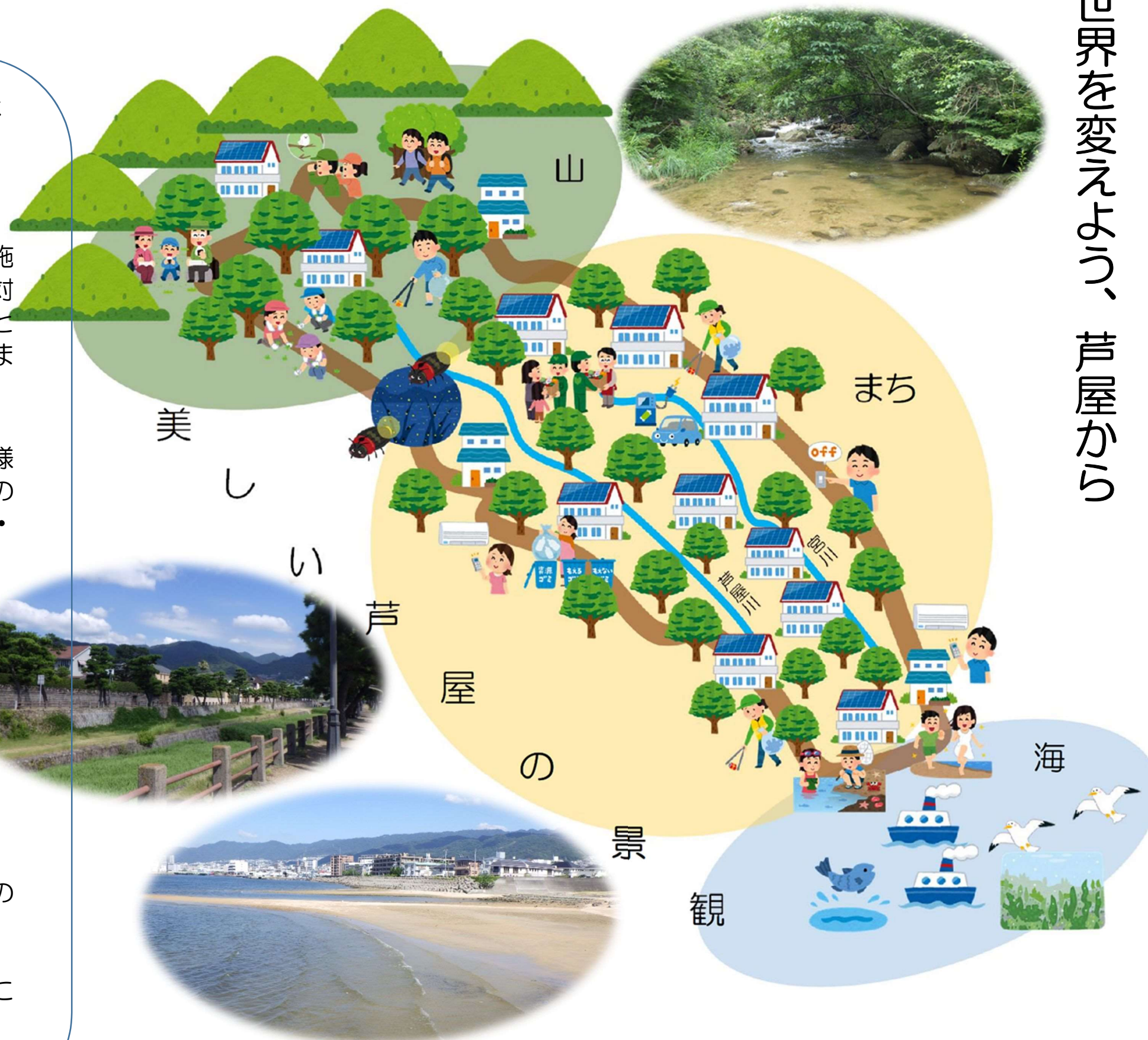
② 脱炭素

地球温暖化を防ぐための緩和策として、ゼロカーボンシティを実現するための取り組み

③ 資源循環

限りある資源を大切にし、今も未来も継続して使うことができるようにするための取り組み

上記の取り組みを市民・事業者・行政が共に学び、創り上げ、地域全体で進めていきます。



世界を変えよう、
芦屋から

目指す「まちの環境」について

「健康・快適」「景観・美化」

目標：美しいまちの景観が大切にされていて、
清潔で快適に暮らすことができるまち
目指すまちの環境

- 健康で快適な生活環境が守られ、みんなが住み続けたいまちであり続ける。
- 山、川、海の自然環境の保全・形成とともに、『緑豊かな美しい芦屋の景観』を大切にすることで、多くの市民の心を和ませている。
- 『緑の質を高めて幸せを育むまち』の実現に向けて取り組んでいる。



「自然共生」

目標：あらゆる主体（市民・事業者・団体・行政など）が、身近に自然を感じ、親しみ、保全に関わる取り組みができるまち

目指すまちの環境

- 市民が山、川、海辺を気軽に散策し、多様な自然を楽しむことが出来ている。
- 環境保全への理解が深まり、多様な動植物の生息環境が守られている。
（例）奥池地区の湿地にはコケ類・ラン類・両生類等、芦屋川中流にはホタル、海岸沿いには砂浜に生息する動植物、またそれらを捕食する生物の生息環境等。）
- ブルーシーフードなどの取り組みにより、海の豊かさが守られている。



関連ワード

- ・生物多様性
- ・ネイチャーポジティブ
- ・30by30



※関連ワードに関する
詳細な説明は、資料編
に記載しています。

「脱炭素」

目標：ゼロカーボンシティを目指すまち
目指すまちの環境

- デコ活が普及し、一人ひとりが、それぞれに適した取り組みを取り入れ、快適に生活をする事ができている。
- 再エネ由来のエネルギーを利用することができている。
- プラスチックのリサイクルが進み、可燃ごみに含まれるプラスチックゴミの量が大幅に減っている。
- 次世代自動車導入と、充電などの施設整備が進んでいる。
- 省エネ設備、再エネ設備の積極的な導入が進んでいる。



関連ワード

- ・デコ活
- ・カーボンニュートラル

学びと共創
環境とのすこやかな
つながりを学べるまち

「資源循環」

目標：みんなが気軽に資源を循環していけるまち
目指すまちの環境

- ごみの減量、ペットボトルなど資源の再利用、リサイクル、アップサイクルなどに地域全体が協力して取り組むようになり、地域からのごみの排出量が減少している。
- 雨水の利用や地下浸透のための設備が増えている。
- グリーン購入の意識が定着し、取り扱う店舗が増えている。
- 下水処理水の有効活用や、下水汚泥のエネルギー有効利用等が進んでいる。



関連ワード

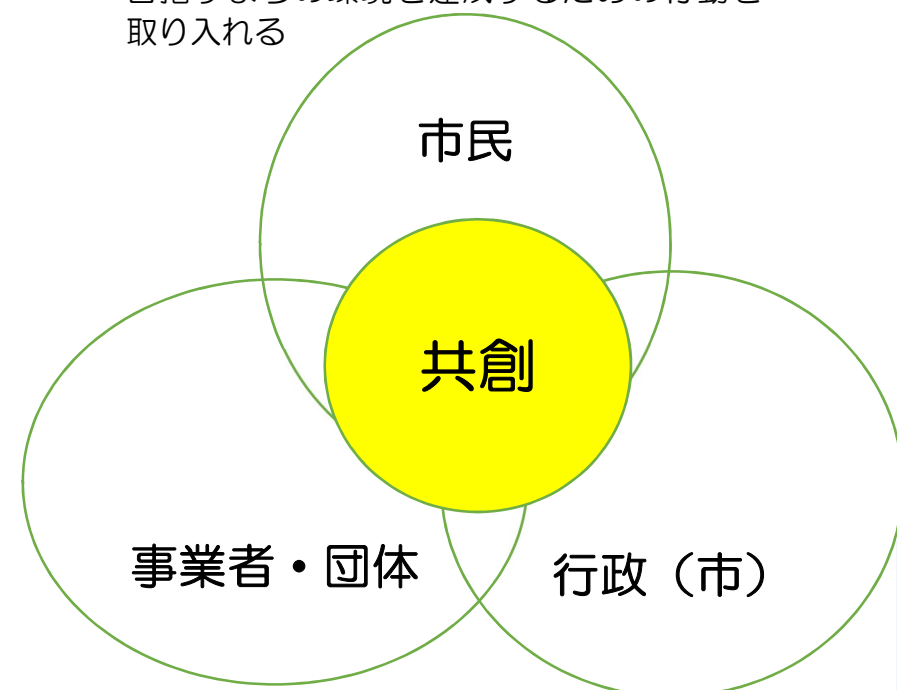
- ・サーキュラーエコノミー
- ・アップサイクル

学びと共創について

目指すまちの環境を達成するためには、「市民・事業者や団体・行政が共に学び、共に創り上げていく」仕組みが必要不可欠です。

第4次芦屋市環境計画では、「学びと共創」を3つの取り組みをつなぎ推進する要と位置付けて施策を推進していきます。

自ら積極的に学び、ライフスタイルの中に、
目指すまちの環境を達成するための行動を
取り入れる



行政と連携し、市民に向け
た学びの場を提供する。
環境に配慮した商品の選
択、ライフスタイルの変
化を気軽に実施できるよ
うな商品・サービスを積極
的に提供する

市民、事業者・団体との連携、
情報発信、環境に配慮した
商品の選択、ライフスタイル
や事業活動の変化を後押し
するための施策を実施する

みんなの行動変化

目指す「まちの環境」

自然共生

共創の例：芦屋に生息する動植物の名前や特徴などを知り、生息環境に配慮した行動をする
芦屋市は、山・川・海の自然が身近にあることから、都市でありながら、
多様な動植物が生息するまちです。自然にふれる機会を増やすことで、
知識を増やし、自然と共生する行動が大切です。

市民：勉強会や観察会、保全活動等のイベントに参加
事業者・団体：勉強会や観察会の開催、保全活動の実施
行政（市）：市民・事業者・団体や国・県との連携、情報の発信



脱炭素

共創の例：私たちが使うエネルギーに関心を持ち、温室効果ガスの削減につながる行動をする
芦屋市は住宅都市であることから、家庭部門と業務その他部門からの排出が、大きな割合を占めていま
す。そのため、省エネ家電の購入や、再エネ設備の設置だけでなく、
ひとりひとりのちょっとした工夫や取り組みが、削減につながります。

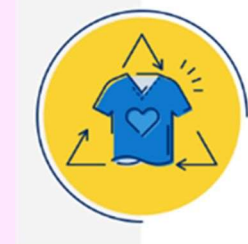
市民：勉強会への参加と実践、省エネ家電、再エネ設備、
次世代自動車の購入等
事業者・団体：勉強会の開催、省エネ設備、再エネ設備、
次世代自動車の導入、充電設備などの整備等
行政（市）：情報の発信、補助の実施、省エネ設備、再エネ設備の導入、
次世代自動車のインフラ設備促進に向けた取り組みの実施



資源循環

共創の例：持続可能なかたちで資源の有効利用につながる行動をする
芦屋市は、令和5年10月から指定ゴミ袋の導入や、令和6年4月からペットボ
トルの水平リサイクルを進めています。市民・事業者の3R（発生抑制 Reduce、
再使用 Reuse、再資源化 Recycle）やアップサイクルへの取り組みがごみの
削減につながります。

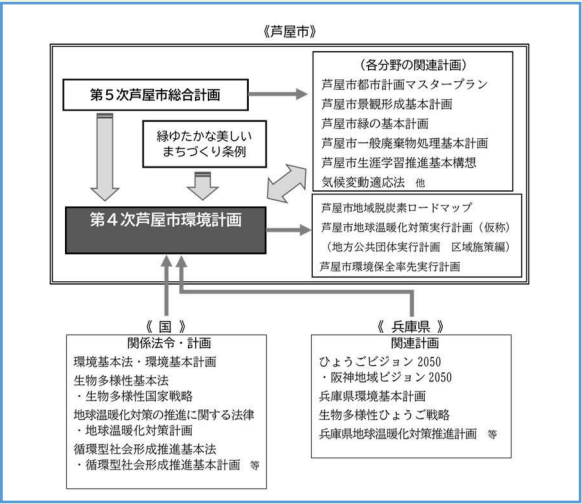
市民：勉強会への参加、リユース・リサイクル・アップサイクル製品の購入や資源の提供
事業者・団体：勉強会の開催、再使用・再資源化の促進、アップサイクル製品の製造や販売
行政（市）：事業者・団体の支援・連携、情報の発信



参照：環境省

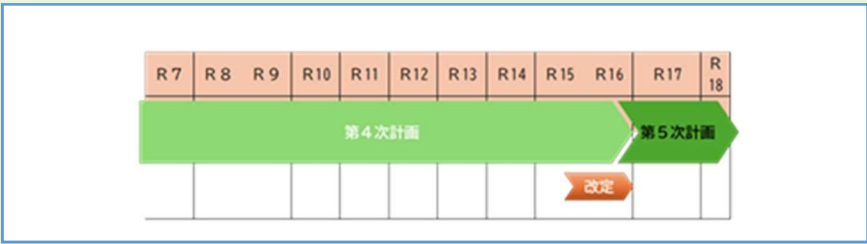
計画の位置付け

第4次芦屋市環境計画は、「緑ゆたかな美しいまちづくり条例」第7条の規定に基づき、本市における環境の保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための基本となる計画として位置付けられています。



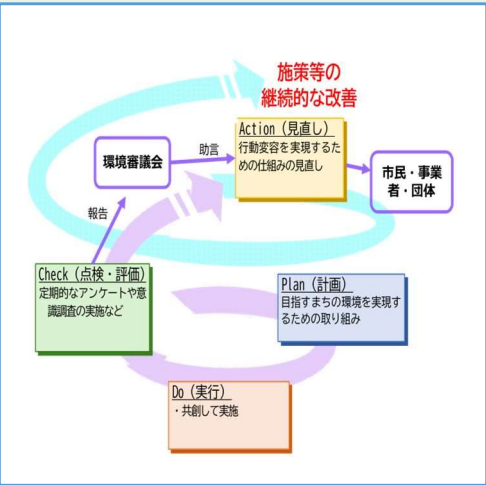
計画の期間

第4次芦屋市環境計画の対象期間は、第3次芦屋市環境計画の目標年度の翌年度である令和7年度を初年度とし、令和16年度までの10年間とします。



計画の進行管理

第4次芦屋市環境計画の進行は、PDCA サイクルによって管理します。



第4次芦屋市環境計画資料編

資料編は右の2次元バーコードを参照



まずは、できることからはじめてみませんか？
例えば

- ①「まち散歩を楽しもう！」⇒自然共生
- ②「食べ残しゼロ運動を！」⇒脱炭素
- ③「ごみ分別度を誇れるまちに！」⇒資源循環

その他の具体的な取り組みの例は、
右の2次元バーコードを参照してください。



第4次芦屋市環境計画

ずっと住み続けたいまち「あしや」の環境のために
あなたとこれからも続けること
あなたとこれから始めること